

平成22年度
キャリア教育指導者養成 研修

各学校段階における キャリア教育の推進について

追手門学院大学心理学部 教授
三川 俊樹

1

進路指導・キャリア教育の周辺

- ・進学指導(偏差値／振り分け／輪切り 指導)
- ・就職指導(履歴書／面接 指導)
- ・職場体験・インターンシップ(体験的活動)
- ・**職業教育** 知識・技能の育成
(専門的・実践的教育)
- ・**キャリア教育** 勤労観・職業観の育成
(基礎的・汎用的能力の育成)
- ・キャリアガイダンス(社会的・職業的自立に関する指導等)
大学等の高等教育機関で

進路指導と進路相談

学習指導要領に位置づけられた進路指導

- 1 進路指導の6領域 (ガイダンス & カウンセリング)
自己理解、進路理解、啓発的経験、
進路相談、選択決定の援助、追指導
- 2 キャリア教育と**キャリアカウンセリング**

2010年 キャリア教育の新しい動向

- 1 **教育基本法**の改正 H.18
- 2 **学校教育法**の改正 H.19
- 3 **学習指導要領**の改訂
H.20 小・中学校 改正通知
H.21 高等学校 改正通知
- 4 **教育振興基本計画** H.20 7月 閣議決定
- 5 **大学設置基準**の改正 H.22
- 6 中央教育審議会 答申 H.22 秋(予定)

4

教育基本法・学校教育法 改正

- ・教育基本法 第2条(教育の目標) 第2号
個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を
培い、自主及び自立の精神を養うと共に、**職業及
び**生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う
こと
- ・学校教育法 第21条(**義務教育**の目標)10
職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重ん
ずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能
力を養うこと

5

教育振興基本計画・新学習指導要領

- ・教育振興基本計画
今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき事項
子どもたちの勤労観や社会性を養い、将来の職業や生き方
についての自覚に資するよう、(中略)、**小学校段階からのキャリア
教育を推進する**。特に、中学校を中心とした**職場体験活動**や、
普通科高等学校におけるキャリア教育を推進する。
- ・新学習指導要領 総則 (高等学校)
生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択するこ
とができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な
進路指導を行い、**キャリア教育を推進すること**。

6

大学設置基準 改正

- ・平成23年4月1日から施行
- ・大学設置基準第42条の2(社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための体制)
- ・大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、**学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。**

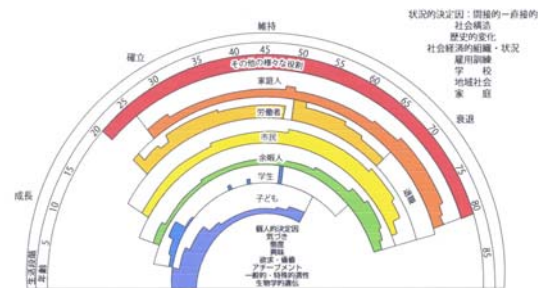
キャリア教育が求められる背景

- ① 少子・高齢社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化
- ② 就職・就業をめぐる環境の変化（日本型雇用慣行の崩壊）
- ③ 若者の**勤労観・職業観**、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題
- ④ **精神的・社会的自立が遅れ、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定ができない、自己肯定感を持ってない、将来に希望を持つことができない、進路を選ぼうとしないなど、子どもたちの生活・意識の変容**
- ⑤ 高学歴社会における**モラリウム傾向**が強くなり、**進学も就職もしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりえず」進学したりする若者の増加**

キャリアとは何か

- 1 キャリア
人生、生き方、生きるということ
- 2 生涯発達における多様な**役割**の統合とその連鎖（D・スーパー）
- 3 個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における**自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積**（文部科学省）

ライフ キャリア レインボー (ドナルド・スーパーによる)



キャリア教育とは

- (1) キャリア教育とは（初等・中等教育）
社会的・職業的自立に向けて、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育
- (2) **キャリア発達**を支援するプログラム
発達段階に沿った系統性（計画性・継続性）
- (3) 個別にキャリア発達を支援するかかわり
キャリアカウンセリング（適切なコミュニケーション）

11

キャリア教育の意義 キャリア発達

- 1 キャリア教育は、**一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性**を示すもの
- 2 キャリア教育は、キャリアが子どもたちの**発達段階やその発達課題の達成**と深くかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ子どもたちの**全人的な成長・発達を促す視点に立った取組**を積極的に進めること

キャリア発達—4領域・8能力

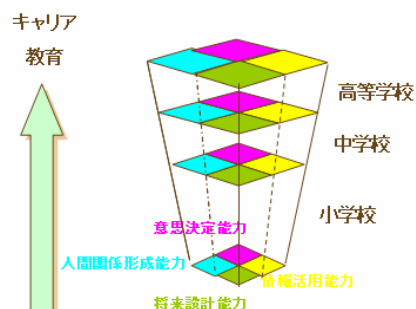
文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成16年1月28日）

- (1) **人間関係形成能力** 自己の理解、コミュニケーション
他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々と
コミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。
- (2) **情報活用能力** 情報収集・探索、職業理解
学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く
情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。
- (3) **将来設計能力** 役割把握・認識、計画実行
夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を
踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。
- (4) **意思決定能力** 選択、課題解決
自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行なうとともに、その過程
での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。

13

生きる力は 積み重ねて 育てる

発達段階に沿ったキャリア教育



2010年 基礎的・汎用的能力 1

- ・分野や職種にかかわらず、**社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力と整理**
- ・**社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と、学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成をキャリア教育の視点に取り込んでいくこと**は、学校と社会・職業との接続を考える上で意義
- ・具体的内容には、「**仕事に就くこと**」に焦点を当て、実際の行動として表れる観点から4つの能力に整理
- ・これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできるだけ分かりやすく提示する観点から整理

15

2010年 基礎的・汎用的能力 2

- 1 **人間関係形成・社会形成能力**
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
- 2 **自己理解・自己管理能力**
自分が「できること」「意欲を感じることにしたいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
- 3 **課題対応能力**
仕事を進める上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し解決することができる力
- 4 **キャリアプランニング能力**
「働くこと」を扱う意識を醸成し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

16

平成22年度 キャリア教育リーダー養成（基礎編）2

キャリア教育における キャリアカウンセリング

17

キャリアカウンセリングの定義

文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」

- ・**学校におけるキャリアカウンセリング**は、子どもたち一人一人の生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、子どもたちが自らの意志と責任で進路を選択することができるようにするための、**個別またはグループ別に行う指導援助**である。
- ・キャリア発達を支援するためには、個別の指導・援助を適切に行うことが大切であり、特に、中学校、高等学校の段階では、**一人一人に対するきめ細かな指導・援助を行うキャリアカウンセリングの充実**は極めて重要である。

18

キャリアカウンセリングの場面

- 1 放課後の教室で
「先生、合格できるかなあ ……」」
- 2 6年生の「道徳」の授業で
「ふーん、ほかには？」「私も、〇〇と思いました」
- 3 2年生の子どもに
「好きなことも、得意なこともないの……
それは困ったねえ……」

19

キャリア教育推進のために 1

- 1 児童生徒一人一人のキャリア発達への支援
 - a 子どもたちのキャリア発達の的確な把握
 - b キャリアカウンセリングの機会の確保と質の向上
- 2 教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成
 - a すべての教員がキャリア教育の本質的理解を共有
 - b すべての教員が基本的なキャリアカウンセリングを行うことができるように

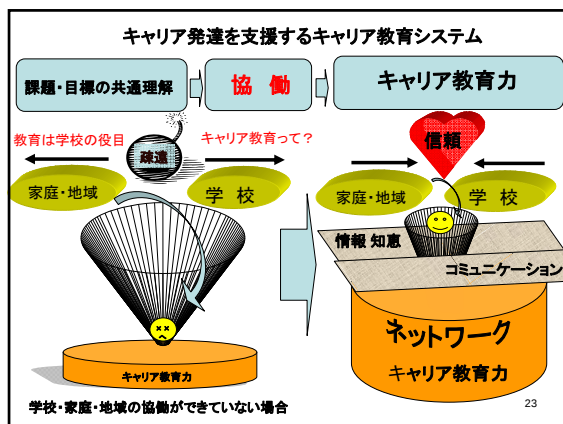
キャリア教育推進のために 2

- 3 教員の行うキャリアカウンセリング
 - a 非構造的・日常的、短時間・短期間
主体的 vs 依存的・指示的、個別 vs 集団
 - b 積極的な働きかけ
チャンス／呼び掛け・呼び出し／出張・出前
- 4 5つのCoの重要性
 - a 個別支援 コミュニケーション、カウンセリング
 - b チーム支援 コーディネーション、コンサルテーション、コラボレーション

キャリア教育の実践に必要な 5つのCo

- 1 コミュニケーション: Communication
適切なコミュニケーションによる情報収集と理解
- 2 カウンセリング: Counseling
主体的に問題解決や意思決定が図られるようにするための支援
- 3 コーディネーション: Coordination
複数の援助者がその役割や責任を認識した上での連携・調整
- 4 コンサルテーション: Consultation
関係者の共通理解を基礎にした支援のあり方の相互検討
- 5 コラボレーション: Collaboration
関係者の協力関係を基礎にした協働(チームワークによる支援)

22



カウンセリングとは

- 1 人がよりよく生きるための援助
- 2 問題解決や意思決定が図られる
- 3 自己理解、情報収集、計画実行が促される
- 4 「聴く」「受け止める」を積極的に行う
コミュニケーション

コミュニケーションのポイント

- (1) 「聴く」「受けとめる」を効果的に活用する
自己表現を促すために
- (2) 積極的な働きかけ
積極的傾聴・抑制・沈黙の意味
- (3) 人は語ることによって気づく
気づきは行動を推進する

コミュニケーション技法 1-1

アイビィ・Aの microcounseling 技法 から

- (1) **かかわり行動**(attending behavior)
言語的・非言語的に表現された感情と内容を傾聴し、よく聴いていることを、相手によくわかるように伝える。

4つの行動

26

コミュニケーション技法 1-2

- ① **視線** (eye contact): 快適で適切な視線の合わせ方
- ② **身体言語** (body language): 「傾聴」の身体的表現(表情、姿勢、動作などによる)
- ③ **声の質** (verbal tone): 声の大きさ、調子、語気、話すスピード、話し方
- ④ **言語追跡** (verbal following): 相手の発言を優先

27

コミュニケーション技法 2-1

- (2) **かかわり技法** (attending skills)

- ① **観察** (observation)
 - (a) 非言語的表現の観察: 身体言語(表情、姿勢、動作など)
 - (b) 言語的表現の観察: キーワード、言語パターン、矛盾、込み入った表現

28

コミュニケーション技法 2-2

- ② **質問** (questioning)
 - (a) 開かれた質問 (open questions)
自己表現を促す
 - (b) 閉ざされた質問 (closed questions)
応答が簡潔。情報収集、話題を絞る

29

コミュニケーション技法 2-3

- ③ **はげまし** (encouraging)
相手の発言を引き出し、自己探求を促す
 - (a) 受容: うなずき(非言語的)、「ええ」「はい」などの言語的反応
 - (b) 単語の繰り返し
 - (c) うながし: 「それで?」「それから?」「たとえば?」など

30

コミュニケーション技法 2-4

④ 言い換え (paraphrasing)

相手の発言内容のエッセンスを繰り返す

⑤ 感情の反映 (reflection of feeling)

相手の感情に焦点をあてて、反射する

31

適切なコミュニケーションの結果

- 1 自己理解やコミュニケーションが促進される
- 2 必要な情報を収集し、有効に活用する
- 3 具体的な計画を立てて、実行しようとする
- 4 意思決定のために、選択肢を検討する

平成22年度 キャリア教育リーダー養成 (基礎編) 3

コミュニケーション・スキルの基礎

カウンセリング・スキルの基礎

33

コミュニケーションのワーク 1

対話のパターン (2人組のワーク)

これまでも、自分なりにがんばってきたのですが……

(試験に)合格できるでしょうか？

この生徒に、どのような言葉をかけますか？

コミュニケーションのワーク 2 (点検)

(1) …………… (返答なし)

(2) でも、でも、だって、けど、しかし

(3) そうかなあ……

コミュニケーションのワーク 3 (点検)

聴く

(気をつけたいこと)

無視、無理解、無関心、聞き流し、先送り、
時期はずれ、あきらめ、など

コミュニケーションのワーク 4 (点検)

Aさん 試験に合格できるでしょうか・・・

B1 大丈夫！

A1 **でも**、やっぱり、心配です・・・

B2 絶対に、大丈夫だって！

A2 **でも**、やっぱり、心配です・・・

A2 **そうかなあ**・・・。

コミュニケーションのワーク 5 (点検)

受け止める

(気をつけたいこと)

安易な保証、気休め、気持ちの否定、
心配の先取り・先送り、泣き面に蜂、
的外れ、追い込み、正しすぎる意見、など

適切なコミュニケーションの結果

- 1 **自己理解**や**コミュニケーション**が促進される
- 2 必要な**情報**を**収集**し、有効に**活用**する
- 3 具体的な**計画**を**立てて**、**実行**しようとする
- 4 **意思決定**のために、**選択肢**を検討する

カウンセリングのワーク 紙上訓練法1

A いつも他の人間に勝ちたいし、
負けたくない。自分には能力がある
し、やれば絶対に、他人に負けるこ
とはないと信じています。けれども、
やる気が起こってこないんです。

→ この発言に対して、適切に応答してください。

カウンセリングのワーク 紙上訓練法2

B 私は、自分というものがよくわか
りません。何をしたらよいのか、どう
したらよいのかよくわかりません。
周囲の連中は毎日楽しそうに何か
やっているけれども、私には全然ピ
ンと来ません。そんなことは、何か
別世界のような気がします。

→ この発言に対して、適切に応答してください。

カウンセリングのワーク 紙上訓練法3

C 何をするにも、いつも両親のこ
とが気になります。進路のことでも、両
親にわかってもらいたいし、気に入
ってもらいたいと思います。そして、
私のことを一番わかってくれる人た
ちだと思います。

→ この発言に対して、適切に応答してください。

カウンセリングのワーク 1

A いつも他の人間に勝ちたいし、負けたくない。自分には能力があるし、やれば絶対に、他人に負けることはないと信じています。けれども、やる気が起こってこないんです。

カウンセリングのワーク 2

B 私は、自分というものがよくわかりません。何をしたらよいのか、どうしたらよいのかよくわかりません。周囲の連中は毎日楽しそうに何かやっているけれども、私には全然ピンと来ません。そんなことは、何か別世界のような気がします。

カウンセリングのワーク 3

C 何をするにも、いつも両親のことが気になります。進路のことでも、両親にわかってもらいたいし、気に入ってもらいたいと思います。そして、私のことを一番わかってくれる人たちだと思います。